

新卒看護職員の就職時の「看護基本技術」の習得状況

◇ (社) 日本看護協会 新卒看護師の『看護基本技術』に関する実態調査報告書 (2002 年) より作成

【調査対象施設】 精神病院、老人病院を除き、平均在院日数、看護職員の配置割合、新卒看護師採用状況、規模、設置主体、地域等を勘案した 201 施設の内、調査に同意した 134 施設
 【調査対象看護師】 対象施設に勤務する 2002 年 4 月採用者の内、新卒看護師 2,110 名
 【調査期間】 平成 14 年 7 月 10 日～同年 8 月 30 日

表 1 新卒看護師が入職時に一人でできる項目

領域		項目数	入職時に 70%以上の新卒看護師が「一人でできる」項目
a	環境調整技術	3	1.基本的なベッドメイキング(81.2) 2.基本的なりネン交換(75.7)
b	食事援助技術	4	なし
c	排泄援助技術	9	なし
d	活動・休息援助技術	7	なし
e	清潔・衣生活援助	7	なし
f	呼吸・循環を整える	6	なし
g	創傷管理技術	3	なし
h	与薬の技術	18	なし
i	救命救急処置技術	12	なし
j	症状・生体機能管理技術	17	1.呼吸、脈拍、体温、血圧を正しく測定(74.7) 2.身長・体重を正しく測定(72.0)
k	感染予防の技術	7	なし
l	安全管理の技術	4	なし
m	安楽確保の技術	3	なし
n	コミュニケーション技術	3	なし
合計		103	

【考察】

- ほとんどの施設 (97.7%) が、4 月に入職後、新卒看護師に対する集合教育を行い、プリセプター制を導入しているが、入職 3 ヶ月を経ても十分な技術習得に至っていない。
- 施設での集合教育の内容は、「救命救急処置技術」「感染予防の技術」「安全管理の技術」「与薬の技術」が多く取り上げられている。
- 基礎教育で実施経験が少なくても、3 ヶ月で習得しやすい技術は、「皮下注射」「筋肉注射」「静脈内注射の準備と介助」「点滴静脈注射の準備と介助・管理」「血糖測定と検体の扱い」「誤訳防止のために手順を守り与薬できる」といった入職後頻繁に経験する技術であった。
- 配属部署によって、技術の習得に差が出ている。
- 技術習得に向けて、基礎教育と臨床での教育との連携が必要である。